（別紙4（2））

事業所名　ヒューマンケア富合

作成日：　平成30年1月4日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	熊本地震後、避難所や仮設住宅への炊き出し等実施してきたが、食の確保からコミュニテーの変化に伴う課題を感じた。事業所としての役割が今後、課題に応じた地域支援体制を構築していく必要がある。避難所や転居地での生活が安心ある地域環境によって、少しでも安心ある生活のための支援を行っていく必要性を見出しながら支援して行きたい。	被災者のQOL低下防止に努め、ニーズを捉え「生き甲斐」や孤独にならないコミュニテーの場により地域で安心した暮らすことが出来る。	①地域の高齢者、避難所で生活されている方が閉じこもりにならないように、事業所が率先して多職種と連携し「集う場」の提供やADL低下防止のための体操を行う。 ②地域の高齢者の役割を見出す為に、ホームでのボランティアを呼びかけ、出来る事を失わず、生き甲斐をもってもらう。（掃除・草取り・料理・話し合い手等）	12ヶ月
2	13	トライアル雇用で採用したスタッフを受け入れ、人材育成のシステムが明確になっていなかった。また、法人としての研修事業部の活用が出来ていない。	ホームとして人材育成のシステムの確立と地域の地域密着型施設など事業所との連携を強化しネットワークの構築をするためにも研修事業部を使った、研修会の実施をしていく。	①年間の研修計画を立案し、実施していく。 ②事業所スタッフは勿論の事、他事業所への声かけし研修参加の声かけを行い、研修参加の呼びかけを行う。	12ヶ月
3	2	若年性認知症の増加に伴い、地域で家族と暮らす支援は重要である。経済的問題や家族負担軽減のために、高齢者の中で暮らすより、自分なりの役割を永く継続出来る生活支援が重要である。	若年性認知症と診断された方に、事業所が相談窓口とネットワークを確立し、不安感が少なく、経済的支援の窓口など、気軽に相談できる事業所となる。（ご本人やご家族）	①現在、若年性認知症の人の生活の場として、高齢者の多いホームでは、役割や生き甲斐の喪失に陥りやすい。そのために若年性認知症の方の背景を理解する為にスタッフが学び、相談を受けたり、また、気軽に立ち寄れる場所の提供が必要と考え、事業所としては、新たに同敷地内に相談や集いの場を設けたいと計画を行っている。	12.ケ月
4					

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。